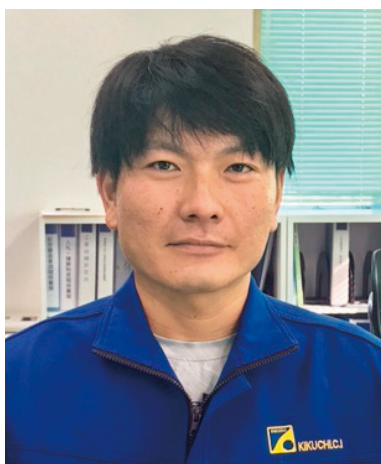


連載企画 SDGs取り組み事例紹介

菊池建設工業株式会社

～「SDGs宣言」住み続けられる街づくりに貢献するために～



【会社概要】

1980年（昭和55年）土木建設会社として創業。以後、下水道工事をはじめ河川工事、公園工事、道路改良工事、法面防護工事など幅広く手掛け、地域に貢献。1997年には環境事業部を立ち上げ、施設の維持管理にも事業を拡げ、四国でいち早く管路更生を開始した。

また、2022年にはSDGs宣言を出して、その目標として「地域の未来を創りたい」「人と技術を育てる」「環境対策」「地域貢献」の4つを掲げ、具体的な取り組みを進めている。

【話し手】

菊池建設工業(株) 代表取締役社長 菊池臣起

—SDGsの取り組みをはじめたきっかけについて聞かせて下さい。

2020年に松山市がSDGs未来都市に選定され、同市の公共事業に携わる会社として何かお手伝いできるものがあるか、との思いから取り掛かりました。その当時から、この地区の建設業者もSDGs宣言を出す会社が散見され始めたので、当社も取り組みたいもの、どのように着手したらいいかと思案していたところ、タイミング良く地元金融機関の伊予銀行がSDGs事業の伴走型支援を始めたという話を聞いたのでサポートをお願いして、『SDGs宣言』を出しました。その中で謳っている4つの目標を通して「人と技術を育てる」ことを目指して取り組んでいきたいと考えています。

当社では以前からBCP（事業継続計画）の策定に注力してきた関係で、自分も含めて3名が防災士の資格者として在籍しており、地震などの災害時には活躍できる態勢ができています。SDGsにも防災士の設置は含まれている事から、これも活かせるのではないかと考えてさらに鍛錬を重ねているところです。そして、松山市は防災士の登録者数が日本一多い都市でもあります。

—管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

地震などの有事の際に、上下水道が使えるか、幹線道路で陥没していないか、という事はとても重要です。3.11東日本大震災の時、私自身も千葉県浦安市に住んでいてライフラインが寸断した辛い経験をしたので、その大切さが本当に良く分かります。管路更生工法は管路の耐震性向上に大きく寄与します

SDGs未来都市まつやま



❖SDGs未来都市とは❖

「SDGs未来都市」とは、内閣府が2018年度よりSDGsの達成に向けた取り組みを積極的に進める自治体を公募し、経済・社会・環境の三側面の統合的な取り組みにより、新たな価値を創造する提案を行った自治体として認定する制度です。そこで国は、自治体のSDGsの取り組みを支援するとともに、成功事例の普及展開を目的に、2018年度から毎年30都市程度の「SDGs未来都市」を選定しています。

ので、インフラの強靱化という面でもSDGsに貢献しているのではないかと考えています。

また、公共事業全体としてスクラップ&ビルドからストックマネジメントに考え方が変わってきた上に、管路更生工法は環境負荷を低減できるのでさらに優位だと言えます。開削工事と比較して工期も短く、工作機械も小型化できて、道路規制も最小限なので住民の負担が少なく済みます。

管路更生は様々な工法が開発されていて、設計条件ごとに最適な工法で無駄なく施工することができます。当社でも製管工法や形成工法などを取り扱っているため臨機応変な対応が可能です。

全国的に知られていると思いますが、四国では年間を通して水不足になる地域が多く、このエリアでも毎年ダムの貯水率が下がってしまうので、水資源はとても貴重なものです。管路更生では施工前に必ず既設管の洗浄を行います。地域のインフラ整備



する企業が、一方で住民が困っている水を使って洗浄している構図は良いとは言えません。そのため我が社ではSDGsの主旨を鑑みて、2020年社内に井戸を設置し、大量に使う工事用の洗浄水を水道水から「井戸水」へと切替えて夏場を中心に活用しています。

〈社内に設置した井戸〉



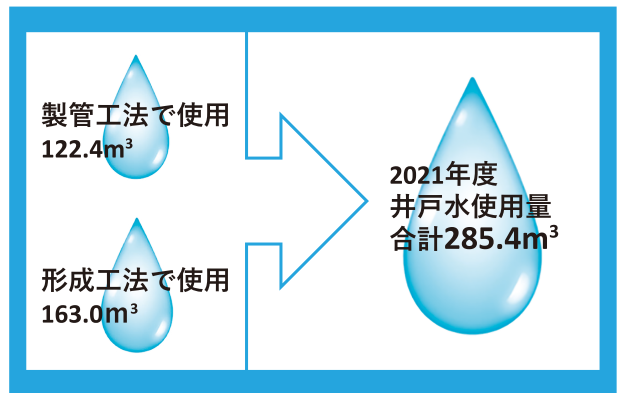
〈井戸からの放水〉



〈洗浄車〉



〈井戸水による代替量〉



(測定データ)

- 製管工法：φ 1000 × 100 m 20.4m³/件 × 6 件
- 形成工法：φ 250 ~ 350 × 330 m 32.6m³/件 × 5 件

* 事前調査、裏込注入、取付管仕上げ等含む

—SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社独自の取り組みとして、人間学について書かれた専門雑誌を社員各自で読み、その感想を自由に述べ合う会（「木鶏会」）を定期的に行なっています。

人間学とは、働き甲斐に関する事や住み続けられる街づくりと住民参加、貧困問題やジェンダーなどについて考えるもので、身近でかつ大切な事柄が取り上げられていますので、SDGsの目標「人と技術を育てる」ともリンクしています。

〈木鶏会の様子〉



〈定期購読している専門誌〉



❖木鶏とは❖

木鶏（もっけい）とは、荘子（達生篇）に収められている故事に由来する言葉で、闘鶏において木彫りの鶏のように全く動じない最強の状態を指します。この言葉はスポーツ選手に使用されることが多く、特に日本の武道（相撲・剣道・柔道）選手が好んで使用されます。横綱双葉山も連勝が69で止まった時、「我、未だ木鶏たりえず」と言ったそうです。

また、低炭素型コンクリート（株キクノ）といったセメント製造時のCO₂排出量を削減したコンクリートがあるので、グリーン調達観点から優先的に購

入するようにしています。施工現場では夜間に使う照明器をガソリン式からLEDに変えたので、CO₂の排出量が1/3に削減できました。

[kg-CO₂]

	CO ₂ 排出係数	2021年度 CO ₂ 排出量	CO ₂ 削減量
ガソリン式	2.322kg-CO ₂ /ℓ	102.167	▲ 71.733
LEDバッテリー	0.527kg-CO ₂ /kVA	30.434	

—貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

一番大事なことは今のSDGs宣言の各項目をしっかり守って継続する事です。愛媛県と松山市では2030年までのGHG削減目標が（2013年比）27%削減となっており、当社も20%削減は達成したいと考えています。

〈防災士のメンバー（認定証を手に）〉



菊池建設工業株式会社 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

2022年3月15日
菊池建設工業株式会社
代表取締役 菊池 臣起

SDGsの達成に向けた取り組み

地域の未来を創りたい

地域を支える環境インフラ企業として、時代や社会のニーズに対応し、お客様をトータルサポートすることで、地域の未来創りに貢献してまいります。

【具体的な取組み】

- ・品質マネジメントシステム「ISO9001」認証取得
- ・地域インフラ整備や下水道管路維持
- ・高品質で多彩な工法の取扱い
(SPR工法、アルファライナー工法、クリスタライニング工法、マグマロック工法など)



人と技術を育てる

「人と技術を育てる」ことをモットーに、資格取得支援や人間力向上に向けた取組みを推進することで、やりがいのある職場づくりに努めてまいります。

【具体的な取組み】

- ・公平な人事制度導入
- ・資格取得支援
- ・「社内木鶏会」による勉強会の開催
- ・シビルエンジニアリングの養成
- ・労働安全講習会開催による労災防止の徹底



環境対策

環境マネジメントシステムを有効活用して、環境に配慮した工法の推進や省エネルギーな取組みを実践することで、地域の環境保全に努めてまいります。

【具体的な取組み】

- ・環境マネジメントシステム「ISO14001」認証取得
- ・省エネルギーに向けた取組み
- ・廃棄物の分別徹底とリサイクル推進
- ・エコカーの積極導入
- ・下水道管路施設のストックマネジメントの推進



地域貢献

地域のインフラを守る企業として、自然災害時に備えた対策などを徹底することで、地域に根ざした信頼される企業を目指してまいります。

【具体的な取組み】

- ・地元人材の積極採用
- ・BCP（事業継続計画）策定
- ・各現場での清掃活動
- ・地元学生の職場体験やインターンシップ受け入れ
- ・自然災害時の地域復興支援



SDGsとは

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までの国際目標。「地球上の誰一人取り残さない」をスローガンに、持続可能な社会の実現を目指しており、経済・社会・環境などの分野で17の目標と169のターゲットで構成されています。

